

# 岩盤ボーリング柱状図

調査名 国道182号測量設計業務委託 (交通安全・井関工区)

事業・工事名

調査目的及び調査対象 道路 掘削・掘削のり面

ボーリング名	Boring No.1	調査位置	国道182号測量設計業務委託 (交通安全・井関工区)	北緯	34° 40' 51.1652"
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和3年 1月13日～ 令和3年 1月19日	東経	133° 17' 49.6677"
調査業者名		主任技師		現代代理人	
孔口標高	GH 580.38m	角	180° 上 下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	13.00m	度	0°	向	
		地盤勾配	鉛直	使用機種	東邦地下工機製D0型
			90°	エンジン	ヤンマー TF-90M
				ポンプ	東邦地下工機 BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名 (模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	記	孔内水位 / 測定月日	ルジオン試験		原位置試験	室内試験	削孔状況	排水量 (L/min)	
															P	Q					
1	580.08	0.30	砂質土	褐黒	w4	h3	D	IV	d	DI	17	47	100	1/15							
2											III	c	CL	24	78	100	1/18				
3					w3			C			II	b	CM	32	93	100					
4														24	78	100					
5														19	69	100					
6														20	78	100					
7					w2	h2		B	II	a	CH			59	76	100					
8														37	93	100					
9														51	90	100					
10					w3			C			III	b	CL	52	78	100					
11														51	90	100					
12					w2			B	II	a	CH			30	98	100					
13	567.38	13.00			w3			C			III	b	CL	19	73	100					
14					w2			B				a	CM								

## < 凡例 >

### コア硬軟区分判定表

記号	硬軟区分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでボロボロに砕ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

### 風化区分表

記号	風化の程度
w1	非常に新鮮である。
w2	新鮮である。層理面、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
w3	弱風化している。層理面、劈開に沿って風化している。
w4	風化している。岩片はほとんど風化・変質していない。
w5	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

### 変質区分表

記号	変質区分	変質状況
h1	非変質	肉眼的に変質鉱物が認められないもの。
h2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度が低いもの。 または、非変質部の割合が肉眼で50%以上のもの。
h3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判断できるが原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。 または、非変質部を残すものおよび細粒変質部。
h4	強変質	構成鉱物、岩片等変質鉱物で完全に置換され、原岩組織を全くほとんど残さないもの。

### コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状、砂状、粘土状コア。

### 備考

### コア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
I		長さが50cm以上の棒状コア。
II		長さが50~15cmの棒状コア。
III		長さが15~5cmの棒状~片状コア。
IV		長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
V		主として角礫状のもの。
VI		主として砂状のもの。
VII		主として粘土状のもの。
VIII		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)